

商工建設常任委員会会議録

平成24年 1 月26日

場 所 第5委員会室

平成24年1月26日（木曜日）

午前10時0分開会

会議に付託された議案等

- 商工観光振興対策及び土木行政の推進に関する調査
- その他報告事項
 - ・口蹄疫復興中小企業応援ファンド事業の実施状況について
 - ・東九州メディカルバレー構想特区の指定について
 - ・県内における新規学校卒業予定者の就職内定の状況について
 - ・「東京ガールズコレクションSweet Xmas Edition supported by 宮崎恋旅」の実施結果について
 - ・2012年春季スポーツキャンプの状況について
 - ・東九州自動車道「清武～日南間」の事業再評価について

出席委員（8人）

委員	長	松村	悟郎
副委員	長	渡辺	創
委員		緒嶋	雅晃
委員		蓬原	正三
委員		丸山	裕次郎
委員		内村	仁子
委員		高橋	透
委員		凶師	博規

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

商工観光労働部

商工観光労働部長	米原	隆夫
商工観光労働部次長	長嶺	泰弘
企業立地推進局長	森	幸男
観光交流推進局長	安井	伸二
商工政策課長	後沢	彰宏
金融対策室長	菓子野	信男
工業支援課長	富高	敏明
商業支援課長	金子	洋士
労働政策課長	篠田	良廣
地域雇用対策室長	平原	利明
企業立地課長	黒木	秀樹
観光推進課長	向畑	公俊
みやざきアピール課長	小八重	英
工業技術センター所長	橋口	貴至
食品開発センター所長	工藤	哲三
県立産業技術専門校長	押川	利孝

県土整備部

県土整備部長	児玉	宏紀
県土整備部次長 （総括）	内栢保	博秋
県土整備部次長 （道路・河川・港湾担当）	濱田	良和
県土整備部次長 （都市計画・建築担当）	大田原	宣治
高速道対策局長	中野	穰治
管理課長	江藤	修一
用地対策課長	河野	俊春
技術企画課長	満留	康裕
工事検査課長	前田	安徳
道路建設課長	白賀	宏之
道路保全課長	谷口	幸雄
河川課長	野中	和弘
ダム対策監	森	茂雄
砂防課長	東	憲之介

港湾課長	坂元政嗣
空港・ポート セールス対策監	矢野透
都市計画課長	大迫忠敏
建築住宅課長	伊藤信繁
営繕課長	酒井正吾
施設保全対策監	上別府智彦
高速道対策局次長	沼口晴彦

事務局職員出席者

議事課主査	前田陽一
議事課主任主事	野中啓史

○松村委員長 ただいまから商工建設常任委員会を開会いたします。

まず、本日の委員会の日程についてであります。お手元に配付いたしました日程案のとおりでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○松村委員長 それでは、そのように決定いたします。

執行部入室のため、暫時休憩いたします。

午前10時0分休憩

午前10時2分再開

○松村委員長 委員会を再開いたします。

ことしになりまして最初の委員会でございますので、一言、ごあいさつを申し上げます。

まずは、新年明けましておめでとうございます。皆様におきまして、新しい年をそれぞれいろんな思いで迎えられたのではないかと思います。昨年、一昨年と災害等で大変な思いをされたのではないかと思います。とにかく宮崎県の景気も悪くて、商工関係の皆さんも雇用関係を中心にいろんな御苦勞をされたのではないかと

と思います。年を改めまして、ことしはいい年にしていきたいという思いは人一倍強いのではないかと思いますけれども、1月17日、そして3月11日、4月20日、それぞれにいろんな災害を思い返すわけでございます。記念日といいますが、その記念日にはまた心を新たにして、気持ちを引き締めて次にスタートする思いになるのではないかと思います。

商工関係でいいますと、古事記編さん1300年あるいは日本書紀1300年という記念すべき年、記念日といいますが、そういうこともございますので、心新たに新たなチャンスをつかむ年になるかと思います。私たちが含めてですけれども、宮崎県の経済を含めて、復興に向けてチャンスをつかんでいけるような年になればと思っております。

年頭のあいさつではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、報告事項の説明を求めたいと思います。

なお、委員の質疑は執行部の説明が終了した後をお願いいたします。

○米原商工観光労働部長 まず初めに、委員の皆様方には、昨年末に開催いたしました東京ガールズコレクションのクリスマスイベントに足を運んでいただきまして、まことにありがとうございました。楽しんでいただけましたでしょうか。

本日は、お配りしております常任委員会資料の目次にありますとおり、商工観光労働部をめぐる最近の動きとして、口蹄疫復興中小企業応援ファンド事業の実施状況についてなど、5項目につきまして御説明させていただきます。

また、本日は、県の情報誌「J a j a」の最新号をお持ちいただいているかと思います。今

回特に、先ほど委員長からお話がありましたが、古事記編さん1300年記念として古事記の特集も載せておりますので、ごらんいただくと幸いです。なお、今回の「J a j a」につきましては、一言お断り申し上げたいと思います。最後の54ページをおあけいただきたいと思っております。実はここにアンテナショップのPRのページがございますけど、「みやぎ物産館」につきましては、1月2日をもちまして「みやぎ物産館KONNE」に名称を変更したところでございます。ただ、この印刷が、それをやると決めたときには既に印刷にかかっておりまして、間に合いませんでしたので、配布の際に変更されている旨のお知らせをしているところでございます。一言お断り申し上げたいと思いません。

それでは、本日の委員会資料の内容につきまして、担当課長等から御説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

○後沢商工政策課長 常任委員会資料の1ページをお開きください。宮崎県口蹄疫復興中小企業応援ファンド事業の実施状況についてでございます。

まず、1のファンド事業の概要であります。内容につきましては、これまでの常任委員会においても御説明しておりますので、本日は2の支援状況について御報告いたします。平成22年度の助成開始以来、現在までに7回の助成決定を行っており、プレミアム商品券は、21市町村の延べ27の実行委員会に対して2億1,879万円、地域活性化イベントは、11市町村の延べ24の実行委員会に対して1億1万8,000円、緊急誘客対策は、8市町村の8の実行委員会に対しまして3,000万円の助成を決定したところであります。助成決定額の合計は3億4,880万8,000円と

なっております。助成決定率は92.0%となっております。

資料の2ページでございますが、市町村別の助成決定状況を記載しております。表の左から2番目の欄が市町村ごとの助成限度額、また、右から3番目の欄が助成額、一番右の欄が助成決定率となっております。

なお、助成限度額まで助成決定を受けていない市町村に対しましては、県内経済の活性化を図るため、早期の事業実施を働きかけているところでございます。

商工政策課からは以上でございます。

○富高工業支援課長 委員会資料の3ページをごらんいただきたいと思っております。常任委員会の委員の皆様方には昨年末に既に御連絡いたしておりますけれども、東九州メディカルバレー構想特区の指定について、改めて御報告させていただきます。

まず、1の総合特区の第1次指定状況であります。東九州メディカルバレー構想の取り組みを促進するために、昨年9月に大分県と共同で地域活性化総合特区の指定申請を行ってまいりましたが、12月22日に内閣総理大臣の第1次指定を受けたところであります。なお、地域活性化総合特区には全国で77件の申請がありまして、26件が指定を受けております。

次に、2の指定されました総合特区の概要であります。名称は「東九州メディカルバレー構想特区」としてありまして、宮崎県と大分県の全域を対象区域としております。また、目標につきましては、血液・血管を中心とする医療機器産業の一層の集積と、この産業集積を生かした地域の活性化を目指すこととしており、数値目標としまして、宮崎・大分両県の医療機器生産金額を、平成21年の1,378億円から平成26年ま

での5年間で15%増加することを掲げております。さらに、研究開発や医療機器の産業集積を促進するための薬事法関連の規制緩和や、産学官の取り組みを促進するための財政上、税制上の支援措置を提案しているところであります。

なお、総合特区の指定申請に当たりましては、東九州メディカルバレー構想特区地域協議会を設置いたしまして、地元の関係者の皆様方との協議を行ったところであります。

次に、3の指定後のプロセスであります。今後、内閣府、関係省庁、地方公共団体等で構成される国と地方の協議会におきまして、特区で提案しております規制の特例措置等に関する協議が行われることになっております。その後、この協議会で合意されました規制の特例措置等を活用した総合特区計画というものを作成し、認定を受け具体的な事業を実施することになっております。

総合特区に指定されましたことで、構想の推進に一層の弾みがつくものと考えておりますが、これからの関係省庁との協議が非常に重要になってまいりますので、これまで以上に大学、企業、関係団体等と密接な連携を図りながら、取り組んでまいりたいというふうに考えております。

説明は以上でございます。

○平原地域雇用対策室長 委員会資料の4ページをお願いいたします。宮崎労働局の調査によりまして、昨年12月末現在の県内における新規学校卒業予定者の就職内定の状況について御説明いたします。

まず、1の高等学校卒業予定者につきましては、2,829人の求職者のうち内定者は2,431人となっており、内定率は85.9%で、前年同期を5.3ポイント上回っております。

次に、2の大学等の卒業予定者についてですが、まず大学生は、1,538人のうち内定者が861人、内定率は56%で、前年同期を0.3ポイント下回っております。次に、短大生は、355人のうち内定者は221人、内定率は62.3%で、前年同期を6.4ポイント上回っております。また、高等専門学校生は、126人のうち内定者が122人、内定率は96.8%で、前年同期を1.4ポイント下回っております。

なお、一番右の欄に記載のとおり、内定者に占める県内内定者の割合につきましては、高等学校が55.3%、大学が35.5%、短大が93.7%、高専が13.1%となっております。いずれも前年同期を上回っております。

このような状況を踏まえまして、先月22日には、宮崎労働局や県教育委員会と一緒に経営者協会など経済4団体に対し、昨年6月に続きまして2回目の求人要請活動を行うとともに、工業会やJA中央会などにつきましても、今月中旬から順次、求人要請を行っているところでございます。今後、3月の卒業に向けまして、各学校における未内定者の就職支援に加えまして、県のヤングジョブサポートみやざきや国の新卒応援ハローワークにおける就職相談などにより、一人でも多くの方が就職できるよう努力してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○向畑観光推進課長 5ページをお開きください。東京ガールズコレクションのイベント実施結果についてであります。

本県では、青島や高千穂を初め、恋や愛にちなんだ縁結び神社等を活用し、若い世代の女性等をターゲットに、従前から「宮崎恋旅プロジェクト」を実施してきたところでございます。今回、東京ガールズコレクションとタイアップし

ましたイベントを開催いたしまして、多くの来場者はもとより、メディア等を通じ全国に向けて情報発信ができたものと考えております。

イベント実施の状況でございますけれども、昨年12月23日にシーガイアコンベンションセンターにおいて開催されまして、約5,150名の方に御来場いただいたところでございます。実施の内容として主なところでございますけれども、

(4)のメディアの状況でございますが、①にありますように、32のメディアの参加がございました。②の放送、掲載を確認したメディアでございますけれども、テレビにつきましては、フジテレビやFBS放送、テレビ東京など全国に向けた放送がございまして、2月にはNHKのほうでも放映が決まっているというふうに伺っております。また、新聞各紙においても数多く掲載されております。ウェブにおいては、インターネット上のファッション情報サイトとして有名なファッションプレスやモデルプレスといった主要な情報サイトを中心に、60本以上の媒体で掲載が確認されているところでございます。③にございますように、今回出演されたモデルの方々が宮崎恋旅等についてのブログ、ツイッターでのコメント等を多く発信されて、全国に向けた情報発信ができたものと考えております。

最後に、(5)のイベント終了後の民間主催の取り組みでございますが、12月23日当日の夕方なんですけれども、「LOVE for 恋街」という取り組みを宮崎市の「D o まんなかモール委員会」の主催において開催されました。内容といたしましては、東京ガールズコレクションのモデルさんによる恋旅モニュメントの除幕式等が行われたところでございます。この取り組みにつきましては民間主導で行われておりまして、

今回のイベント等を通じまして、宮崎の恋旅が少しずつ民間のほうにも広がっているのではないかと考えているところでございます。

以上でございます。

○小八重みやざきアピール課長 みやざきアピール課からは、2012年春季スポーツキャンプ等の状況について御報告いたします。

常任委員会資料の6ページをごらんください。この春もプロ野球やJリーグなどのプロスポーツを初め、多くのスポーツキャンプ・合宿が実施されまして、県内外から多くのスポーツ選手や観光客の皆さんが来県されることになっております。

まず、プロ野球でございますが、例年どおり、読売巨人軍を初め5球団が宮崎市ほかでキャンプを行います。また、プロ野球のキャンプに関しましては、主な話題といたしまして、福岡ソフトバンクホークスの歓迎パレード及び広島東洋カープ50周年記念事業が実施されることになっております。

まず、福岡ソフトバンクホークスの歓迎パレードでございますが、資料7ページの別紙をごらんください。このパレードは、昨年、2011年シーズンにおける日本一のお祝いをいたしますとともに、ことしのシーズンのさらなる活躍を願いまして、福岡ソフトバンクホークス宮崎協力会が主催して実施するものでございます。具体的には、1月31日(火)の18時から県庁正門前で歓迎セレモニーを行った後、18時20分に県庁を出発し、楠並木通りから橘通りを北上し、デパート前交差点を折り返す往復コースで実施されることとなっております。秋山監督を初め約30名の選手の皆さんが参加くださる予定になっておりますので、ぜひとも多くの県民にお出かけいただき、歓迎していただけたらというふうに考

えております。なお当日は、パレードの準備・実施等に伴いまして、楠並木通りが16時から20時まで、楠通りが市役所前交差点からデパート前交差点までの間で17時50分から19時30分までの道路規制が行われますほか、県庁前庭への立入規制等も行われますので、来庁者の皆様等への周知に努めてまいりたいと考えております。

前のページに戻っていただきたいと存じます。広島東洋カープが昭和38年に日南市でキャンプを開始して以来、ことしが50周年に当たりますことから、広島東洋カープ日南協力会の主催でスタンプラリーや記念グッズを作成、写真展の開催など、多彩なイベントが50周年の記念行事として行われることとなっております。

続きまして、オープン戦についてでございます。ことしは2月18日、25日、26日に行われますので、こちらにも多くの県民の皆様が足を運んでくださるようお願いいたします。なお、オープン戦の来場者には県産品が当たる企画等も用意されているというふうに聞いております。

次に、サッカーのJリーグについてでございます。Jリーグは、J1・J2の40チームのうち、新規チーム3チームを含めまして過去最高の23チームが来県することとなっております。内訳といたしましては、J1チームが10チーム、J2チームが13チームとなっております。そのうちFC町田ゼルビア、松本山雅FC、ファジアーノ岡山が本県では初めてのキャンプとなります。

最後に、3のその他でございます。口蹄疫復興対策運用型ファンドを活用いたしまして、宮崎観光コンベンション協会が実施することしのキャンプでの新たな取り組みを御紹介いたしたいと思っております。

この事業ではツイッターですとかフェイスブックといったソーシャルメディア、いわゆるSNSを活用してコミュニティサイト「みやざきスポコミュ」を開設いたしまして、春季キャンプの様子をリアルタイムで情報を発信いたしまして、キャンプを盛り上げてまいりますとともに、さらなる誘客を図ってまいりたいと考えているところでございます。既に、今週の月曜日から浦和レッズと湘南ベルマーレがキャンプインしておりますが、これから3月までの春季キャンプの期間中、一連のキャンプや合宿をおもてなしの心いっばいで受け入れまして、スポーツランドみやざきを盛り上げてまいりたいと考えております。ぜひとも、多くの県民の皆様がキャンプ地に足を運んでいただき、選手の皆さんを激励してくださるようお願いいたします。存じます。

春季キャンプに関する説明は、以上でございます。

○松村委員長 執行部の説明が終わりました。委員の皆様、質疑はありませんか。

○緒嶋委員 宮崎県口蹄疫復興中小企業応援ファンド、これは商品券のほうは各市町村でかなり達成されているようでありませけれども、宮崎市とか大きいところは商品券の発行がなされていないというのは、どういう理由がありますか。

○後沢商工政策課長 執行率の低いところとか商品券の活用などされていないところがありますけれども、メニューが複数あるものですから、どういう形の使い方が一番効果的なのか、各市町村で商業者の数とか商売の規模とかを勘案されながら、イベントに使ったり商品券発行に使われています。例えば、宮崎市だと地域活性化イベントのほうで使われたということござ

います。

○**緒嶋委員** それはその市町村の選択だからいいんですけど、市の大きいところは事務的にいろいろと面倒くさいとか、何か特別にそういうことでこうなったのかなと。特に人口の多いところほど、イベントなら単純にできますけど、商品券というと手続的にも時間もかかるし煩雑ということでこうなったのかなという気がしたのだから。

○**金子商業支援課長** 緒嶋委員からのお尋ねでございますが、宮崎市の場合は、40万都市ということでございまして、市単独で総額22億円ぐらいの大きな規模ですから、市の単独の予算で2億円ぐらいつぎ込んであるということでございます。今回のファンドの枠が、宮崎市についてはわずか2,600万ということもありますので、規模的に足りないということもあります。むしろ、これを歳末の大売り出しに使用しましたが、あれも久しぶりに復活したということもありまして、経済効果としては30億ぐらいあったというふうに商工会議所のほうから聞いておるところでございます。先ほど、商工政策課長も申し上げましたとおり、さまざまな団体の事情を勘案しながら、より効果的な活用という形で実施されたものと思っております。

○**緒嶋委員** 今後の問題ですけど、口蹄疫復興宝くじを発売して、宮崎県の配当が7億数千万円あったと思うんですね。そのものについての今後の取り扱いというのは、商工サイドから見れば、そのあたりの協議とか、見通しというのは持っておられるわけですか。

○**後沢商工政策課長** 宝くじからの配当金の使い道について、全庁的に今後どういうふうに活用されていくのかというのが議論されていくと思いますので、商工関係についても必要に応じ

て議論していくことになるというふうに考えております。今のところ、少なくとも我々の立場で具体的にどういう使い方をするという議論が決まったということではないというふうに理解しております。

○**緒嶋委員** 復興・再生というのが宮崎県の大きな目標でもあるわけだから、来年度は4月から始まるし、新年度予算もすぐ予算審議にも入るわけで、まだ何が決まっていなくてかということじゃなくて、そういうことも含めてスピーディーに物を進めていかなければ、来年度のことにはまだわかりませんというような取り組みでは積極性がないと思うんです。そのあたりはどのようなスタンスですか。課長の答弁は私は余り前向きじゃないと思っております。

○**後沢商工政策課長** 決して後ろ向きということはないんですけども、今おっしゃった宝くじのお金もありますし、当然、今後審議が始まる県の予算の話もありますし、口蹄疫復興財団で持っておられるファンドの活用というのがあります。資金についてはいろいろな選択肢があるので、そういったものをどういうふうに使っていくのかということは、我々としても、積極的にそれを所管しているところとかに提案するなりして活用を図っていきたいというふうに思っております。そこは前向きにやっていきたいというふうに考えております。

○**緒嶋委員** 少なくとも来年度予算審議の前までには、来年度の方針とか、そういうものを明確にすべきだと思うので、それまでに調整して、商工サイドとしては、宝くじの配分がどれだけあるかは別にして、こういう方向で進むという方針は当然決めるべきだと思うんです。今度の新規予算との絡みも出てくるだろうと思うんですけど、そのあたりは部長、どうですか。

○米原商工観光労働部長 今、御指摘のあったお話は大変重要な話だと思っております。既に県のほうでも基金を持っていますし、今おっしゃった宝くじの関係もありますし、先ほど申し上げたように、口蹄疫の1,000億のファンドのほうもございます。それをどのように使っていくかということがございますので、私どもとしては、できるだけたくさんいただきたいという気持ちでいろいろやらせていただいているところでございます。

○緒嶋委員 ぜひ、頑張ってくださいと思います。

それから、東九州メディカルバレー構想の中で、区域が宮崎県、大分県の全域ということになっておるわけですね。全域というふうになった理由はどういうことですか。

○富高工業支援課長 全域ということに関しましては、当初からいろいろ議論はあったんですが、当然、本県の場合も、医療機器産業に参入したいと思われている企業さんが全域に広がっているということもございまして、こういった方々が特区の恩恵を受けるためには、やっぱり全域というふうにしなないとまずいだろうということで、全域ということで決定したところでございます。

○緒嶋委員 今後、総合特区計画ということになると、それも全域でやるということになるわけですか。

○富高工業支援課長 おっしゃるとおり、全域を対象としますので、例えば、日南とか都城の企業さんも、もし、そういうことに取り組もうということであるならば対象になるという形になってまいります。

○緒嶋委員 もともと宮崎の場合は延岡・日向地区、大分は大分県南を中心にとということとし

たが、それは考えなくて総合特区計画を立てるということになるわけですか。

○富高工業支援課長 もともののメディカルバレー構想というものに関しましては、議員おっしゃるとおり、大分の南、本県の北ということに産業の集積地等々がございますので、そこが中心になるということで構想を進めようという意図はございましたが、特区に関しましては、地場企業の参入ということも大きな視点になってまいりますので、やはりそこは全域を対象にするべきだろうというような判断でございます。

○緒嶋委員 広くやるというのはいいんだけど、ある意味では特区の特性がぼけてくるというか、広くなり過ぎて、主体的な、集中的なものがばらけることによって、かえって特区の意義が薄れるおそれもあるんじゃないかという気もするんだけど、その心配はないですか。

○富高工業支援課長 現在の集積地そのものは県北にあるという事実はございますけれども、我々とすれば広くそういう企業さんの取り組みを支援したいということでございます。それについては全域を対象とした指定を受けたということで、国のほうからもお墨つきといいますか、認定を受けたということでございます。今後の取り組みの方法にもよりますけれども、余り焦点がぼけるということではないだろうなというふうに思っているところでございます。

○緒嶋委員 総合特区計画の作成はいつまでにやられるわけですか。

○富高工業支援課長 特区に関しましては、期限といったものは特に国のほうも定めておりませんので、随時、地元のほうでいろんな計画がまとまれば上げていくというようなスタンスになってまいります。ただ、現在、我々が提案しておりますいろんな規制緩和等々の提案につき

まして、国のほうでいろいろ考え方を整理しているという状況でございまして、整理が終わった上で、再度我々のほうに投げかけて、今度は各省庁との規制緩和に関する具体的な協議が始まってくる。それを2月から4月の間にかけてやりたいというふうに国は言うておりますので、その後に総合特区計画というものを上げて、申請をして認定を受けるということを考えますと、事業を進められるのは早くても5月以降ぐらいになるのかなと。これは推測でございすけれども、そんなふうに今、考えているところでございます。その後は随時、県のほうでいろんな計画がまとまれば上げていくというようなスキームになっております。

○緒嶋委員 その中で特例措置、規制緩和は具体的にどういうものが考えられておるわけですか。

○富高工業支援課長 まず、地場企業の医療機器産業への参入ということに関しましては、いろんな規制がございまして、例えば、地元の企業さんが製造販売業許可を取りたいということになれば、統括製造販売責任者というものを置かなければならない。その責任者には学歴要件だとか、3年以上なければいけないという経験年数要件、そういう要件が今現在、課せられております。特に経験年数要件に関しましては、新たに参入しようとする企業さんにはそういう経験者はいないわけですから、どこからか引っ張ってこなければいけない。そういうことが参入のための非常に大きな障害になっている。これにつきまして、我々とすれば、特区でそういう取り組みをする企業さんがあるならば、一定の要件のもとに緩和してほしい、今、そういった提案をさせていただいているところでございます。

医療機器の開発に関しましては、治験といったものが必要になってまいります、これもかなり厳しい基準がある。これについても一定の条件のもとで緩和してほしいと、今、そういった提案をさせていただいているところでございます。

○緒嶋委員 特区計画の作成の手順だけど、会社が市町村を通じて県で調整するのか、直接それぞれ希望するところが県との調整の中で国に上げるのか、手順はどうなるのか。

○富高工業支援課長 まず、手順としましては、大学でこんなことをやりたいとか、企業さんがこんなことをやりたいといったようなニーズとといったものを県のほうで取りまとめて、県のほうである程度文書を作成して申請書をつくって、それを国のほうに申請していくという段取りになってまいります。

○緒嶋委員 市町村はその作成には直接関与しないということになるわけですね。

○富高工業支援課長 関係する市町村の御意見等はお伺いするケースもあるかもしれませんが、直接は関係してこないということでございます。

○丸山委員 メディカルバレー構想の関連なんです、目標数値を15%増というふうに示していただいておりますが、宮崎県と大分県の生産額が、宮崎県は多分4分の1もなかったんじゃないかと思っているんですが、宮崎県自体はどれぐらい伸ばしていきたいという思いがあるのかというのをお伺いしたいと思っているんですが。

○富高工業支援課長 平成21年現在で1,378億円となっておりますが、宮崎が138億円、大分の生産金額が1,240億円という区分になっております。これは以前も御説明申し上げましたけれども、宮崎で中空糸といった原材料を生産いたし

まして、それを大分のほうに運んで最終製品にしているという現状がございます。それで、最終製品の金額だけがカウントされているという状況でございますので、本県で生産された中空糸なるものの生産はほとんどカウントされていないという状況でございます。こういう差になっているという状況はございます。ですから、そういう現状を考えたときに、全体を上げるということを考える必要があるんだろうなということ、合計金額の15%増ということ、今、考えているところでございます。

○丸山委員 全体を上げるということなんですが、余りにも離れ過ぎているという思いがあるものですから、できれば宮崎県のほうでももう少し生産額が上がって、雇用の場の創出なり、また固定資産税なりいろいろな税収のアップもあってほしいということも思っているんです。大分県と連携というのは非常に重要だというふうに認識はしていますけれども、大分県だけにいいものに行くんじゃないかという懸念も持っているものですから、宮崎県も色濃く生産額が上がるような形——保健福祉大学の人材育成なりを含めていろいろやっていくというふうに聞いていますけれども、宮崎県が本当にこれでよかったんだという形を見せていただければいいかなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

○内村委員 労働政策課の地域雇用対策室長に1つお尋ねします。就職の内定が出ているんですが、大学については大学院の数字が入っているのかどうかということと、高専からの県内就職がすごく少なくて、ほとんどが県外なんですけれども、これは受け入れ先が少ないのかということをお尋ねします。

○平原地域雇用対策室長 まず、大学の対象で

すが、大学院は入っておりません。それから、書いてはいないんですが、これは労働局の調査なんです、宮崎大学の医学部、看護大学については調査対象外とされております。

それから、高専の県内就職率が低いということ、毎年こういう状況なんです、求人で見ますと、ことしの場合で求人数が2,080件あるんですが、県内の求人が51件ということで、もともと求人が少ないというのが1点と、就職の条件というんですか、給与等で都市部のほうが条件がいいということもあるんじゃないかと思っております。

○内村委員 大学が就職率が悪いということで、大学卒業では仕事がないから、大学院に行って、そしてまた現役で受けるというのが今、大分出ているらしいんです。大学院に行って修学してからの就職になるんですが、そのところもこれから先、数値を入れていただけないのかなと思っております。

○平原地域雇用対策室長 調査自体は国の出先の宮崎労働局がやっております、ちょうど来週に定例会議をやりますので、その場で話題にしてみたいと思います。

○内村委員 次に、東京ガールズのことについてお尋ねします。私はこのことについて非常にすばらしかったという評価を皆さんからお聞きしたところなんです、メディアがたくさん来ていらっしやって、私もその日のニュースで見たんですが、このことについて自分でアンケートをとってみました。都城の商業集積地に行って、そこのブティックで働いていらっしやる方に「東京ガールズコレクションについて御存じでしたか」と聞いてみたら、ほとんどの人が「私たちもチケットを申し込んだけど、全然とれなかった」と言われました。そして、小学生に

聞いたら、「宮崎であったのなら行きたかった」という言葉。中高生も同じでした。今度は東京にいる人に聞きました。「何で宮崎であったんですか」ということだったので、口蹄疫からのことで話があって宮崎であったということだったんですが、東京でもなかなか見れないと。これが宮崎で1回きりじゃなくて、若い人に夢を持たせるためにできないのかということを知りたいと思います。

○向畑観光推進課長 今回は多くの方々から見に行きたいというお話もございまして、なかなかキャパシティが厳しかったということで、多くの方には涙をのんでいただいたのかなと思って残念でたまらないんです。そういったこともございまして、私ども、今回、この東京ガールズコレクションを開催していらっしゃるF1メディアさんのほうにも、再度また宮崎という話を、今働きかけておりますので、粘り強く声をかけていきたいと考えているところでございます。

○高橋委員 1ページ、口蹄疫のファンド事業ですけど、市町村単独でも商品券を発行したところがありましたね。そのことを確認させてください。

○金子商業支援課長 市町村単独でも、先ほど御紹介しました宮崎市を初め、私どもの把握している限りでは、延べ22回ほど、22市町村で独自の発行というのがされているところでございます。

○高橋委員 先ほど、宮崎市の関係で、宮崎市と宮崎市の商工会議所だったと思うんですけど、ホテルの割引か何か出しましたね。5,000円以上泊まったら2割バックとか、そういうのがあったと。あの事業費も宮崎市は相当つぎ込んでいると思うんです。数字を把握していらっしゃれば

ば教えていただけないかと。

○向畑観光推進課長 宮崎市の宿泊キャンペーンのことだと思います。ちょっと数字を……。

○高橋委員 後でいいです。

商品券の関係で、私は総じてこの商品券の事業というのはいいものだというふうに思っていましたら、せんだって、23日の生活衛生同業組合の新春の集いで、私も初めて行きましたら、批判される方がいらっしやいまして、「みんながその恩恵は受けんとよ」と。それはそうなんでしょうけど、1,000件対象者があれば、1,000件すべて使ってくれるわけじゃないから、こぼれる人もいるでしょうけど、そういう御批判もあるということは聞いていらっしゃるのか。

もう一つは、経済団体もお肉の関係でやりましたね。これで仲買人は全く恩恵は受けないんですということを何回もおっしゃったりして、いろんなところで御批判があるんだなど。事業に対する感謝というのはいっぱいあると思うんですけれども、一方で、少数だと思いますけど、いろんな指摘事項とか、要望とか、現時点であれば、特徴的なものを教えていただけないかなと思います。

○金子商業支援課長 今、委員がおっしゃいました個別具体的な御不満というのは、私、把握していないんですけれども、例えば宮崎市の場合なんか、いわゆる大型店と中小店、やはり大型店ひとり勝ちという状況をつくらないように、両方に共通して使える券あるいは中小だけに使える券というような形で、うまくそのバランスをとりながら発行しているような例がありますので、それはほかの市町村もそうでして、中小に細かく行き渡るように——というのは今回、ファンド事業につきましても、国の中小企業予算を活用しているものですから、中小企業への

波及効果という部分は、特に国からも要件がまかされていて、そこは神経を使いながらやっているところがございます。その結果、店によってどうしても差が出てくるということは現実的にはあるのかもしれませんが。

それから、口蹄疫の肉の関係につきましては、私どもの部では所管しておりませんで、あれは農政のほうで多分対応したかと思しますので、詳細は把握してございません。以上でございます。

○向畑観光推進課長 先ほどの、「みやざき元気券」の件だと思いますけれども、宮崎市のほうで緊急観光キャンペーン1億2,620万円の事業をしていらっしゃいます。この事業では、1泊5,000円以上で泊まれた方には3,000円の「みやざき元気券」が出るというような取り組みで、昨年6月27日から10月31日までやっていらっしゃいます。以上でございます。

○高橋委員 ありがとうございます。私も実は利用しました。先ほど意見も出ましたが、復興宝くじの7億何がお金のお金の使い道ですが、今後また、商品券等いろいろとまた視野に入るのかなと思ったりしますので、すべてに恩恵が行き渡ることにはなかなか難しいんでしょうけれども、先ほど御答弁にありましたように、中小にできるだけ行くような商品券になるようお願いしたいと思います。

次に行きます。先ほど質疑もありましたが、4ページの就職内定の状況ですが、私がイメージしていた数字よりもいいものですから、実はびっくりしています。私は、22年度よりも23年度のほうが悪いというふうに思っていました。特に宮崎県は公のところも就職の間口が狭まっていますね。採用の数がどんどん減っているはずです。おまけに民間はそれ以上に非常に厳し

いというイメージを持っていたにもかかわらず、高卒でいいますと就職内定率が上回っている。たまたま大学だけが0.3のマイナスですけど——高専もマイナスですか。昨年同期と比べたらおおむねいいという見方ができると思うんです。おまけに県内内定者の割合も上回っている。すべてに上回っていますね。これはどういうふうに分けたらいいんでしょうか。

○平原地域雇用対策室長 まず、高校の内定率が高くなっている。これは、労働局の話では、データがある中ではこの時期では最高の数字になっているという話を聞いておりますが、これについては、県内のハローワークへの求人が、前年より300件ほど多く出ていることが大きいかなと思います。また、各学校に進路対策専門員等を配置いたしまして、早い段階から企業訪問による求人開拓をしたり、きめ細かい相談等を実施して就職に結びつけているということが影響しているのではないかなと思います。

大学については、ほとんど同じで、少し下がっています。大学については全国的に大きく動きますので、毎年度の変動要因を分析するのは難しい面があるんですが、今年度については、東日本大震災の影響で大企業が採用時期を少しおくらせたということで、内定の時期がおくれているのではないかというふうに言われております。

短大については、数字を見ていただければわかりますが、求職者数が100名近く減っておりまして、内定者数も少し減っているんですが、率としては相当上がったということがございます。

それから、県内内定率が現時点では上がっているということについては、特段理由もわからないんですが、新聞なんかで見ると、東日本大震災の影響で、地域のきずなとかそういうもの

があって保護者等の意識も変わって、できるだけ近くでというようなのが影響しているのかどうか、そういう感じだけは受けております。以上でございます。

○高橋委員 いろいろと努力されていることがわかりました。

次に行きます。5ページの東京ガールズコレクション、私も行きまして、大変感動しました。ありがとうございました。また、写真つきで、議会だよりに掲載させていただきました。いろんな反響がありまして、「えっ、東京ガールズに行かれたんですか」と非常にうらやましがらまして、課長からありましたように、ぜひ、また宮崎でということをお願いしたいと思います。ここで、すごくびっくりした数字、5ページの③の検索結果が数百万件増加ですね。もともと何件ぐらいだったんでしょうか。

○向畑観光推進課長 これは開催された会社からのデータなんですけど、「宮崎恋旅」を検索しますと、東京ガールズコレクション、今回のプレスリリース前が100万件だったところが、プレスリリース後、これは瞬間風速なんですけれども、480万件近い数字があったということでございます。

○高橋委員 わかりました。東京ガールズコレクションのイベントの大きさを物語っていると思います。宮崎観光の力を見せてくれましたので、ぜひ、また宮崎で開催されることをよろしくをお願いします。

○蓬原委員 東京ガールズコレクションについてですが、テレビですね、宮崎は、NHKの宮崎放送とMR T宮崎放送。UMKはこれには関与なかったんですか。

○向畑観光推進課長 確認漏れかもしれませんが、ニュースでは出ておりました。申し

わけございません。

○蓬原委員 UMKにも県は出資しているんですか。MR Tは私、知っていますけど。UMKへの株主としての出資はどうなんですか。

○向畑観光推進課長 情報を持ち合わせておりません。申しわけございません。

○蓬原委員 多分、県として出資があると思うんです。株主だと思います。ですから、PRということ考えたときに、MR Tは2回ですか、UMKがあるわけですから、放送上のことみたいなのがあって2社のうち1社を選ぶという、そういうのがあったのなら別なんですけど、自発的に申し込みがあってやるものであれば、出資者たる県としては、せつかくこういうイベントをやるわけですから——若い人たちは結構関心があったでしょうけど、県民の中には知らない人もいますよ。見ると、ああ、そうかという話になっていいPRにもなるし、またそれが伝播していくわけで、私はこれを見て直感的に、どうせUMKはないんだろうなと思ったわけなんですけど、どうですか。

○向畑観光推進課長 UMKは取材にはしっかり来ていらっしゃったんですが、「めざましどようび」の全国ネットのほうを制作していらっしゃった関係がございまして、UMK独自というより、全国ネットへの媒体作成をしていただいたというところでございます。

○松村委員長 ほか、ございませんか。

○渡辺副委員長 2点お伺いします。春季スポーツキャンプの関係なんですけれども、以前も一度、委員会でお話をさせていただいたことがあると思うんですが、もちろん、プロ野球、JリーグのPRというのは効果が非常に大きいというのはわかるんですけれども、少しトップアマチュアに冷めたいかなという気がして、野球の社会

人野球にしても、例えばプロ野球の2軍とのオープン戦を宮崎で組んだり、セガサミー、東京ガスとか、社会人野球だけ見てもトップレベルのチームが何チームか宮崎でキャンプを張り、そして、そこにはプロ野球のようにではないですが、多少のというか、それなりの集客があったり、地域に野球教室で協力をしたりという部分がありますので、例えばこの冊子の中で、私の見落としがあれば別ですが、たくさんじゃなくても、半ページか1ページぐらい割いて紹介があるとか、インターネットのサイトにはもしかしたら載せていただくのかもしれませんが、その辺はいかがでしょうか。

○小八重みやざきアピール課長 御指摘のとおり、今、おっしゃいましたように、野球でいきますとセガサミーですとかトヨタ自動車、あるいは大学とか、いろんなところが宮崎に来ておられます。キャンプマップにつきましては、紙幅も限られておるということで、プロ野球中心になっておりますが、観光コンベンション協会がつくっております「旬ナビ」というホームページがございますが、そちらのほうではきちっと報告といたしますか、いつ来て、どうされるというようなことは載せております。確かにおっしゃいますように、プロ野球だけでもっているわけではございませんので、次年度以降、何か方法があるかどうかというのは検討してみたいと思っております。

○渡辺副委員長 きょうの中身とずれるかもしれませんが、ちょっと気になっていたんですが、小さな冊子の真ん中の「ひい」「むう」「かあ」が載っているところの下に、KITENに新しくできた「JERSEY」でしたか、スポーツのプロショップみたいなものがあるかと思うんですけど、経緯がもしわかれば教えていただきたい

んですが、宮崎で唯一のプロスポーツチームのバスケットのシャイニングサンズのグッズはここにはないですね。私、何度か行ってみたんですが、プロ野球とサッカーのキャンプに来る関連の県外チームのものはあるんですけども、bjリーグもスーパーリーグに対抗してある程度の知名度も出てきた中で、宮崎で唯一のプロチームの扱いが無いというのは、契約上とかライセンスの問題があってそうなっているのか、それとも何らかの理由があるのか、わかれば教えていただきたいと思います。

○小八重みやざきアピール課長 経緯については私ども細かくは承知いたしておりますが、確かに、宮崎唯一のプロチームのシャイニングサンズは、都城が本拠ということではありますが、宮崎の体育館でもホームチームとしてプレーをしていらっしゃいますので、ここにそのグッズを置くことが可能かどうかというのは、「JERSEY」のほうにはお話をしてみたいと思います。

○松村委員長 ほかにございませんか。
その他で何かございませんか。

○丸山委員 その他のほうで、きょうが実は新燃岳が噴火した記念日みたいな形になってしまっているんですが、新燃岳噴火は、高原、都城だけの観光ではなくて、サッカーとかいろいろなキャンプにもかなり影響が出たというふうに聞いているんです。去年起きたからことしも起きる可能性もあると私も思っているものだから、その辺の対策といたしますか、去年起きたのに、ことし何もしないというわけにもいかないと思っているんですが、何らかの対策なんかは考えていらっしゃるのでしょうか。

○小八重みやざきアピール課長 私ども県の立場としては特に何かをやるということではござ

いませんが、受け入れの市町村のほうでは、去年も灰が降ったときには朝早くからやっていたとか、あるいは代替の球場を見つけてあげるとか、そういうことでは努力をされていると思いますので、そこら辺は市町村のほうでやっていっちゃると思います。私どものほうで情報をとれていないのは申しわけございませんが、代替の施設の用意ですとか、そういったことはされていると思います。

○丸山委員 できればということをお願いもしたんですけれども、なかなか難しいと思っているんですが、商業サイドというのは有利な融資制度はよくあるんですが、復興するための新たな助成制度というのはないものですから。新燃岳の噴火のみならず、大きな台風災害とかを受けても、諸塚村なんかでも商店街がつかって、もう一回立ち上げようというときに、少し後押しでもあると非常に立ち上がりもしやすいんだがというようなことも聞きます。今後は復興に対する後押しということは、商業サイドでも何らか考えていただきたいという思いがあるんですが、そういう考えはできないんでしょうか。

○後沢商工政策課長 おっしゃるような声というのは、商工業者の中からも直接我々もお聞きしているところで、例えば、口蹄疫のときとか新燃岳のときとか、我々もそういうことを考えなかったわけでもないんですけれども、国の話にもなりますけれども、基本的には商工業者に対する支援というのは融資が多いわけですが、阪神・淡路大震災が起きたときにも当然同じような議論があって、そのときに、恐らく規模の問題とかもあると思うんですけれども、商工業者に対する支援としては、金融を中心に支援をしていくということで整理がされていて、その後、国も含めた行政全体の支援策というの

は、その考え方の中でやっているというところがあります。実際、金融ではなくて補助金ということになると、商工業者の数も多いですし、一回大きな災害が起きるとその波及も大きいので、補助金ということで交付すると、その財源とか、そういう問題をどうするのかということで非常に難しい問題もありますので、そこは慎重な検討が要るかなというふうに思っております。

○丸山委員 農業分野では3戸以上集まると補助金があるというのがよくあって、個人的な資産の形成にもつながっていて、それが拡大にもつながっているということがありますので、そういう考えで見えてしまうと、これまでは金融サイドの事業だけでよかったのかもしれませんが、一回大きな災害を受けると、廃業してしまう商業サイドが今後ふえてくると思っていますので、現場としてはもう無理ですよというようなことを国のほうにもっと強く言っていただければありがたいのかなというふうに思っております。これは要望にかえます。

もう一点が、記念事業としては、吉都線の100周年というのが地元で始まりつつあります。えびの、小林、高原、都城市連携しながら立ち上げていこうとしているんですが、この吉都線100周年に対して、県としてこういうことをアドバイスできるとか、何らかの考えがあればお伺いしたいというふうに思っているところです。

○向畑観光推進課長 私ども、吉都線100周年はすごく大事な案件だと思っています。特に観光列車を走らせたいという地元からの要望もございますので、JR九州さんとも協議を重ねているんですけれども、まずもって地元の観光地としての磨き上げをしなくちゃいけない。そういったところで私ども観光地づくりという事業

で支援させていただきますし、観光審議会の方々が入って総点検といたしますか、棚卸しを一回しましょうということで見させていただいてるところでございます。具体的には、口蹄疫のファンド等を活用した市町村の取り組みを御支援させていただき、そういったことを息長く続けたいと、JR九州さんも観光列車はすぐすぐには入れてくさいません。ただ、そういったものができ上がると、私どもとしても大きな誘客の一つになると思っておりますので、現在でも沿線自治体の方々とは協議を重ねているところでございます。

○丸山委員 ぜひ、県のほうからもアドバイスをいただいて、古事記1300年祭とあわせてやれば、神話の伝説が多い地域でもありますので、そういうのも絡めて、また、ジオパークというのも当地域は取り組んでいますので、ぜひ、県のほうからいろんなアドバイスなり支援を積極的にさせていただきをお願いしたいと思っております。

○蓬原委員 今、ジオパークが出ました。「J a j a」を見ているんですが、都城のところなんです。きょうはそれを言おうかなと思って来たんです。ジオパーク認定をされていまして、今、世界のジオパーク認定を目指してやっていますが、ジオパークという言葉は出てきたかなと思ったんですけど、出てきていまして、できたら次におつくりのときは、ジオパークという言葉は少しずつやっていただくとありがたいのかなと希望を申し上げておきたいと思いません。

それと、「J a j a」はどのあたりに何部ぐらい、販売ですか。

○小八重みやざきアピール課長 「J a j a」は2万部ほどつくっております、旅行会社、県

外事務所、県内マスコミ、あるいは県人会ですとか、そういったところに全部無料で配っております。

○蓬原委員 私どもが個人的に友達に何かを送るときに、これを一緒に入れて送るということをする場合は無料でいただけるということでしょうか。

○小八重みやざきアピール課長 数に限りがございますが、できるだけ県外の多くの方に知っていただきたいということがございますので、御相談いただければ何とか手配はできると思います。

○蓬原委員 できる限り行った先に自費で宮崎の特産を送るように心得ておりますので、今回もこれを一緒に添えて送りたいと思っておりますから、後で相談したいと思います。よろしくお願ひします。

○松村委員長 そのほか、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○松村委員長 それでは、以上をもって商工観光労働部については終了いたします。

執行部の皆様、お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。

午前11時5分休憩

午前11時10分再開

○松村委員長 委員会を再開いたします。

今回、県土整備部の御報告ということでございますけれども、新年になりまして初めてでございますので、一言ごあいさつを申し上げます。

まずは、明けましておめでとうでございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

先ほどは商工観光労働部だったので、古事記編さん1300年のお話をさせていただきまして、新しい年になって、記念日とかそういうことに

対して気持ちを新たにしてみたいと取り組んでまいりましょうというお話をさせていただきました。県土整備部ということで、昨年、一昨年といろんな意味で、県土の安全、そして県民の皆さんに安心を与えるという意味では、本当に重要なポジションでございますので、引き続き、気を引き締めて御活躍を願いたいと思います。

一つだけ話題としてお話をさせていただきますけれども、昨年、あるいは今もそうですけれども、日本国内で一番売れている書籍と申しますと何だと思いませんか。正月の「天声人語」じゃないですけど、そういうところに載っていたんですけど、「ONE PIECE (ワンピース)」だそうでございます。「ONE PIECE (ワンピース)」とはコミックだったり、テレビ映画でも放映されていますけど、ずっとまだ売れ続けているそうです。その読者層も、子供から大人までということで幅広い年代で人気を得ているそうでございます。これがなぜ今、売れているのかという解説もあったんですけど、「ルフィ」というゴム人間の主人公が、彼一人で戦っているんじゃなくて、仲間と一緒にあって直面する課題に立ち向かっていく。さらには、仲間の1人が窮地に陥ったときには、自分の身を削って仲間を助けていく。その痛快感が読者に受けているんだろうという分析をされていました。

日本も、仲間とか、そういうところの大事さというのを、皆さんが気づいてきたんじゃないかと思えます。長年、家族関係、地域関係がだんだん希薄になってきた中であって、大きな災害や震災、あるいは口蹄疫等を経験して、国民も、子供から大人までやっぱり心の温かい友達関係や家族関係を心から望んでいるのではないかと思えます。

地域の安全ということでございますけれども、心のこもった地域づくりを私たちも一緒になって努めていかないといけないなど。まさに新年、改めて気を引き締めて取り組んでいかなくてはならないと思っております。

ちょっと話が長くなりましたが、それでは、報告事項の説明を求めます。

○児玉県土整備部長 改めまして、ことしもまたよろしく願いいたします。

商工建設常任委員会の皆様方には、かねてから県土整備行政の推進につきまして、格段の御指導、御協力をいただいております、厚くお礼申し上げます。今、委員長からお話がありました。私ども危機事象に対して、組織一丸となって防災力の向上に今後とも努めてまいりたいと考えておるところでございますので、また御指導をよろしく願いいたします。

また、記紀1300年でございますが、これから9年間という息の長い取り組みでありますけれども、2年後には延岡まで高速道が開通する、それも一つの大きなイベントとしてとらえておるところでございます、引き続き御指導方をよろしく願いしたいと思います。

御説明に入らせていただきます前に、一言、御報告とお礼を申し上げたいと思います。去る12月20日に高千穂町の国道325号河内バイパスが開通いたしました。本バイパスの開通によりまして、当区間の安全で円滑な交通の確保が図られますとともに、阿蘇方面からの広域観光ルートとして、地域の観光振興などにも寄与するものと期待されます。開通式には、松村委員長を初め、緒嶋委員にも御出席を賜りました。改めてお礼申し上げます。また、12月22日に西米良村の国道219号横野トンネルが、そしてまた、12月28日は高鍋町の県道木城高鍋線坂本工区が開通い

たしました。これまで御尽力いただきました委員会を初め、県議会の皆様方に厚くお礼申し上げます。

それでは、本日の説明事項でございますが、東九州自動車道清武一日南間の事業再評価につきまして、高速道対策局長から説明させたいと存じますので、よろしくお願いたします。

以上でございます。

○中野高速道対策局長 それでは、報告事項につきまして御説明させていただきます。資料は商工建設常任委員会資料でございます。これに沿って御説明させていただきます。

まず、今回は事業再評価ということでございますが、目的としましては、事業の効率性あるいは実施の過程の透明性の向上を図るということで、継続中の事業におきましても、一定期間ごとに、その事業の必要性であったり、継続の可否について評価を行うというシステムでございます。今般、東九州自動車道の清武一日南間、区間としては清武ジャンクション―北郷間と北郷一日南間の2区間につきまして、この事業評価において第三者委員会の意見を聴取することになってございます。1月23日に九州地方整備局の事業評価監視委員会が開催されてかけられたものでございます。

2の事業の概要のところでございますが、今回かけられた区間につきましては、全体延長28キロ、2区間でございます。事業着手につきましては、平成10年度に有料道路事業として着手されましたが、15年度に直轄方式、無料方式に移行されて事業が進められてきた区間でございます。当初の事業費につきましては、清武ジャンクション―北郷間については736億、北郷一日南間については233億ということで当初の事業費が設定されて進められてきたものでございます。

資料の2ページに参ります。今回、事業評価監視委員会にかけられた内容の中での事業の変更の概要ということでございますが、まず、清武ジャンクション―北郷間につきましては、地質的に非常に脆弱な日南層群、宮崎層群を通過するというので、従来から芳ノ元トンネル等の工事が一時中断しているということでございましたが、この区間につきまして、トンネル区間での補助工法の追加であったり、あるいは支保構造の変更、地すべり対策等が必要ということでございまして、こういったものを踏まえて、今回の再評価におきまして、約562億の事業費増ということが委員会のほうに報告されたということでございます。これに伴いまして、事業費は、変更後1,298億ということでございまして、変更後のBバイC（費用対効果）につきましては、事業全体では0.9、それから残事業、これから投資する部分のBバイC（費用対効果）については1.6ということでございます。あわせまして、北郷一日南間につきましては、インターの形式の見直しによりましてコストの縮減を図っているということで、33億円の事業費減ということで委員会のほうにかけられたということでございます。また、委員会におきましては、こういったBバイC（費用対効果）の数字だけじゃなくて、事業による広域的なネットワーク全体の防災機能の向上ということについても説明がされたということでございます。

こういった変更の内容を踏まえて、4で九州地方整備局、国としての方針の原案が書いてございますが、東九州自動車道につきましては、宮崎の県南地域のアクセス強化や災害に強いネットワークを構築する重要な路線であるということ、また、清武ジャンクション―北郷間については、防災機能等における十分な効果が見

込まれて、かつ、残事業につきましては費用対効果も高いということ、あわせて北郷一日南間については、費用対効果が高い事業ということで評価をされておるといふこととございませう。また、用地の取得も比較的順調といふこと、また、地元の自治体からの協力体制も確立しているといふことから、今後の円滑な事業実施の執行が可能であるといふことを踏まえまして、完成・供用に向けて事業継続としたいといふことと委員会のほうにかけられたといふこととございませう。

また、この委員会にかけるに当たりまして、当県のほうにも事前に検証会が参っておりまして、県としても、この事業の重要性を踏まえて事業継続と一日も早い完成をお願いするといふ旨の回答をしているところとございませう。

事業評価監視委員会につきましては、23日、今週の月曜日に開催されまして、原案のとおり、事業継続といふことと承認されたといふところとございませう。

今回、大きなポイントは、先ほど申し上げました清武ジャンクションー北郷間の事業費の増加がかなり大きなものになっております。これについて、3ページになりますが、若干補足の説明をさせていただきたいと思ひます。

今回の事業費増の大きな要因は、トンネルの区間の施工方法の変更といふこととございまして、事業評価監視委員会に先立ちまして、1月19日に芳ノ元トンネルの技術的な検討を行う施工検討会といふのが開催されまして、その中でトンネルの施工工法の変更が決定されたものごととございまして、その内容とございませう。左側が当初の計画で、一般的なトンネルの施工といふことと計画されておりましたが、右側、今回変更した内容とございませうが、赤で示してある部分

についてが今回、補助工法あるいは構造の変更といふことと行われたものごととございませう。まず、トンネルの上部及び側面部の崩落防止のための補助工法として、注入式の先受け工であつたり鏡ボルト、こういったもので地山を固めていって崩落を防ぐといふ補助工法を追加するといふこととございませう。またあわせて、インバート早期閉合といふことと断面の下のところに赤く示されておりますが、支保構造をなるべく円形に近い形にしまして、土圧に耐える形を導入するといふことと、こういった変更を加えておるといふこととございませう。

支保構造をこれから施工する区間、芳ノ元トンネルのこれから施工する区間、また、まだ未施工とございませうこの先の九平・椿山トンネル、こういったトンネルでも地質の悪いところが想定されるといふことと、こういった補助工法を採用するといふ前提で金額を積み上げることから、大幅な事業費増が計上されたといふこととございませう。

あわせて、下のほうに図面をつけております。これも、1月19日の施工検討委員会の後、一部新聞報道にもございませうが、芳ノ元トンネルにつきまして、線形の一部変更するといふことと決まっております。これもあわせて御説明させていただきます。芳ノ元トンネル、掘削済み区間と未掘削区間といふ形で示してありますが、これから掘削する区間、未掘削区間につきまして、C1～C5ブロックといふ形で地すべり形状が図面の中に示されております。今回、地質調査に基づきまして、新たに深層の地すべりが特定されたといふことと、こういったものをなるべく避ける形でトンネルの線形、これから施工する区間を100メートルほど西側へずらすといふことと、あわせて決められておるといふこと

でございます。

こういった形で工法の追加というのは、追加による事業費増はありますが、安全な施工ができるということもあわせて検討された上で進められているということでございますので、あわせて御報告させていただきます。

以上で報告については終わらせていただきます。

○松村委員長 執行部の説明が終わりました。委員の皆様、質疑はございませんか。

○高橋委員 事業が継続ということで承認されて、本当に地元としてありがたく思います。皆さん方の御努力に感謝申し上げます。部長のあいさつにありましたように、2年後までには延岡が開通ということで、これも喜ばしいことですが、この間ずっと懸案事項であった北川一蒲江と清武以南が28年度以降になっていまして、今度の事業の見直しで560億円ですか、事業費増で、非常に進捗を心配します。地元で声を聞くのは「いつできるのか」と、こういう声ばかりであります。ひょっとしたら北川一蒲江は28年度以降で限りなく見えてきて、清武以南は見通しがつかない、そういう心配をしなくちゃならんのかなという思いで——きょう、具体的にいつごろというのはできないんでしょうけど、北川一蒲江よりも状況は厳しいのかなという思いを持っていますが、その辺の見解はできますでしょうか。

○中野高速道対策局長 今ほど申し上げた北川一須美江間が28年度以降ということでございます。清武一日南についても28年度以降ということで、直轄のほうからは供用の目標がまだ示されていないということが残ってございます。どちらがどうというのはなかなか今の段階ではお示しすることはできないということが直轄の

意思だと思っております。特に北川を含めまして事業中区间につきましては、26年度の供用ということで、これまでどおり、県としての目標は保ちながら、直轄のほうには一日も早い開通をお願いしていくというのが県としての考えだというふうに考えております。特に今回、清武一日南については大幅な事業費増になっておりますので、技術的な難しさに加えて、事業費の確保という観点からも、また、いろんなおくれというものも懸念されますので、そういったことがないように、一日も早く開通できるように、引き続きしっかりと声を上げて伝えていくことが必要かなというふうに思っております。

○高橋委員 事業費の当初の736億円ですね、今まで事業費をどれくらいつぎ込んでいるんですか。

○中野高速道対策局長 これまでの投資につきましては、22年度までの投資額が約450億ということでございます。23年度まで含めると500億強です。

○高橋委員 今、説明がありましたように、500億強、大分完成が近づいてきていた矢先にいろんなアクシデントが起きたというか、しょうがないんですけど、県南にとっては高速道、油津港も含めてなんですけれども、生き残りなんです。今、局長からありましたように、一日でも早くということでございましたので、私たちも一緒になって努力しますので、また今後ともよろしくお祈いします。

○松村委員長 ほかにございませんか。

ないようでございますので、その他で何かございませんか。

○内村委員 地域高規格道路の都城志布志道路についてお尋ねしてよろしいでしょうか。今、都城の平塚町まで工事が進んでいるんですが、

それに対して財部に行く下のほうの道路が、今、2本通っているんです。日豊線の線路沿いに昔からあった道路と、今度、都城志布志道路に入るための道路のところ、新しい道路が工業高校の前からずっと通っているんですけど、平塚町の住民の方たちが、道路が2本あってすごく危険を感じているということなんです。道路を横切れない。都城志布志道路に入るために新しくできた道路が下り坂になっている。今までは真っすぐだったからよかったんだけど、2本の道路があって、坂になっていて、ここからおりてくる車が見えないということで、この道路を横断できないとおっしゃっているんですが、そういう苦情は何か来ておりませんか。

○白賀道路建設課長 道路建設課でございます。今、内村委員が言われた件は、想像で申しわけないんですけど、都城隼人線の旧道と一部バイパスを抜きましたので、そこのところの話かなとは思っていますけれども、現在、私のほうにはその苦情といいますか、そういった具体的なのは聞こえてきてはございません。都城土木事務所のほうにもそこら辺をまた確認はさせていただきたいと思っておりますけれども、現地をそういったことで確認はさせていただきたいと思っております。

○内村委員 事故が何回か起こっているらしいんですよ。そこの住民の人たちは農家と高齢者が多いものですから、向こうの畑に行くのに全然横切れない。横断歩道はあるんです。「横断歩道を通らないかんですよ」と言ったら、「通るんだけど、行こうとしたときは坂のここに車が来ている」ということで、非常にみんなが危険を感じていらっしゃるんです。今、都城土木事務所と話をさせていただくということですが、私が正月からこっち回ったときに、その苦情を何人

か言われた。あれが開通してしまえばまた違うかもわからないんですけど、この道路の傾斜と横断歩道は全然変わらないと思いますので、もし話す機会があったときは相談をしてみたいとありがたいんですが、お願いいたします。

○緒嶋委員 先ほど部長が言われた325号の河内バイパスの開通の折は、部長以下、課長も御出席いただきまして、ありがとうございました。おかげで全体的に車の流れがスムーズで、皆さん、大変喜んでいただいております。ということであるし、言われたとおり、熊本の新幹線も、阿蘇も含めてですが、あちらからのレンタカーを含めた乗り込みが相当ふえております。そういう意味では、218号を通過して延岡、宮崎まで流れてくるようにすることが必要なわけですが、これはなかなか容易ではないというふうに思います。宮崎県の場合は、社会資本、インフラのおくれというのが宮崎県の経済的な浮揚のおくれにも連動しておるといふふうに思いますので、特に24年度も、今度いろいろ補正で増額された分もありますけれども、来年度に向けて、景気対策も含めて公共事業の確保というのは、財政が厳しいから容易でないという一面もありますが、絶対的に確保していかなければ——宮崎県はほかに大きな企業もないわけですので、公共事業をやることに雇用対策も連動していきます。そうなりますと、来年度に向けて、今、予算編成の途中でありますけれども、少なくとも最低23年度並みの予算を当然、当初としても確保すべきだと思います。予算的に最終段階の目前でありますので、はっきり言えない面もあるんですけども、来年度の公共事業に対する取り組みの考え方としてはどのように考えておられるか。金額は別にして、意気込みというか、そこあたりをお聞かせください。

○児玉県土整備部長 委員おっしゃったとおり、まだ予算は確定しておりませんので、具体的な数字は別にしまして、基本的な考え方ということで。知事も言っておりますけれども、今から一番大事なのは経済振興発展といいますか、そういう話と防災力の向上という2点ですね。いずれも我々が所管している部分に重なる部分があります。また、インフラの整備というのも宮崎県の場合、まだおこなっているわけです。そういうおこなうを取り戻すという意味でも公共事業はまだまだやらないかんということで、私どもとしては、前年並み以上の予算を確保しながらおこなうを取り戻す、あるいは公共事業費を確保することによって経済振興も図る、そういう基本的な考えのもとで取り組んでおります。一つは、国の補助あるいは交付金事業というのがありますが、そういったものについても、昨年以上の予算を国に対して要求しながら確保に努めていく。それから、県単事業につきましても、御承知のとおり、特別枠を設けて県単予算についても確保していくということで、政府案の総額は固まりましたけれども、個別の箇所づけるのは今からでありますから、我々としては、こういう整備のおこなった地方に重点的に配分してくれということ強く訴えていくし、実際、来週、また知事にも上京していただいて要望していただくわけですが、そういったところをまずは国に当面、働きかけていきたい。そういう形で予算を確保しながら、先ほど申しました、おこなうを取り戻していくということで取り組んでいきたいと考えておるところでございまして、委員の皆様方にもお力添えをいただきたいと思っております。以上でございます。

○緒嶋委員 その意気込みはわかります。先ほど説明がありました東九州自動車道清武一日南

間にしても、220号線が仮に津波でやられたら、日南は、北郷田野線、あちらのほうを回らんと、それこそ「くしの歯作戦」どころじゃない、何もできないわけですね。そうなりますと、増額されるということで、見通しが立たないということもあるけれども、県民の安心・安全のためにも急がなければ、東南海地震・南海地震が来た場合には九州でも宮崎県が一番津波の被害というのはまともに受けるわけですね。鹿児島や大分以上に宮崎県が一番受ける。そうなりますと、東九州道の一日も早い全体的な整備、そのほか、くしの歯からも、主要地方道の整備あるいは中央自動車道とかいろいろなもの整備というのは、やはり宮崎県の死活問題になると私は思うんですね。

今、道州制を言われておるけれども、その前にこういうものをある程度めどをつけなければ道州制に私は進むべきではない。そして、九州の一体的な将来ビジョンも明確でないのに、道州制というような前のめりの議論が先行すること自体が宮崎県にとってもマイナスだと。将来的なそういうものの全体像が明確になってこそ、初めて議論に入るべきだというような思いをいつもしておるわけでありまして、国が道州制を言うならば、宮崎県としては宮崎県の主体的な発言というのを知事にも持ってほしい。それを私はいつも知事にも言っておるんです。市町村もそういうことで町村会、首長さんたちもほとんどの方がそういう意向を持っておられます。そういう意味では、整備局を九州の中で一体的に受け入れたらどうかというような話もありますけれども、そういうことをすることが本当に宮崎県、九州のためになるのかと。九州と関西だけがそれをやっても、ほかのところはそれに進まなければ日本の全体的な将来像

も見えないわけですので、その前にいろいろな社会資本の整備を中心とし、均衡ある発展ができるような、そういうめどをつけることが先だというふうに思います。

特に、公共事業は、宮崎県の場合は雇用の場、経済浮揚の一つの大きなインパクトのある分野でもありますので、今、部長が言われたとおり、ぜひ、24年度は前年以上、部長が言うことと違うじゃないかという予算にならないように頑張ってもらわなければ、我々としても安心ならんということでもありますので、ぜひ、県土整備部挙げて努力していただきたい。我々も側面からそういう意味で頑張っていかにやいかんというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○高橋委員 今の緒嶋委員のお話を聞いて思い出したんですけど、九州行政機構で国の出先をまとめるというのは、特に宮崎県みたいなおくれたところからすると危機感を感じていると思うんです。特に市町村から、ここに後ろ向きの発言をちらちら聞くものですから。二重行政をいろいろ言いながら、道州制の前段の準備としてこういうようなことをやるんでしょうけど、全国的に見て、整備のおくれているところが、国の出先の移行という動きに反発しているんじゃないかろうかというふうに思ったところです。動向でいいですけど、わかっていらっしゃればお聞きしたい。

○児玉県土整備部長 先ほど緒嶋委員が言われた道州制と、今、高橋委員が言われた九州広域行政機構というのは全く別物だというふうに理解しておりまして、地方分権の流れの中で、その受け皿として、九州では広域行政機構を九州知事会でつくって、整備局の仕事を丸ごと受け入れますということで今、九州知事会から国に

対して提案しておるわけです。関西も同じような動きがある。そういうことに対して、国のほうからこんなふうにやりますという具体的な案が出てきて、それから国と地方で具体的な協議に入っていくということで、今はボールが国のほうに投げられている状態で、今からボールが戻ってきたときに具体的な議論をします。その中で県としては――市町村長さんたちは非常に心配されておる。この前要望もありましたので、そういった市町村の声も踏まえながら議論をしていくというのが今の県のスタンスではないかなと思っております。

一方で、地域主権戦略会議という中で、広域的な自治体制の枠組み、方向性というのが12月に決定されまして、5月ごろの通常国会に法案も出すというような話もあるようでございますので、それまでの間、いろんな議論があるのかなと思っております。我々もそうではありますが、市町村長さんたちが一番心配しているのは、権限とか財源がプランどおりに本当に来るのかどうか、その辺の心配ですね。それと、仮に来たとして、九州広域行政機構という知事会の連合体で整備局のかわりみたいなことをやるわけですね。そういったときに、本当におくれている宮崎みたいなところに予算が配分されるのかどうかという心配もある。それからまた、単なる国の行革の手段としてやるだけじゃないかという、いろんな懸念があるわけです。我々県土整備部としましても、そうなったときにどういうメリットがあるのか、どういうデメリットがあるのか、そのあたりはきちっと整理した上で県の内部でも議論をしたいと考えております。必要な主張といいますか、そういったこともやっていきたいというふうに考えておるところです。以上でございます。

○高橋委員 これは全国のブロックごとでも温度差があるし、九州でいうと各県で温度差があると思うんですね。だから、部長が最後におっしゃったように、宮崎県にとって利益にならないものはやっぱりちゃんと主張していくべきだろうと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○蓬原委員 東九州自動車道ですけど、この起点と終点はどこになるんですか。

○中野高速道対策局長 起点が北九州市で終点が鹿児島市になります。

○蓬原委員 さっき清武一日南間の話をお聞きしたんですけども、鹿児島に行くと、隼人に向かって末吉に一たん上がったのが、鹿屋方面に延びているんですね。まだ行ったことはないんですけど、一回確認しに行ってみたいと思っているんですが、鹿児島側の志布志、いわゆる串間の境までの進捗状況というのは、今どうなっているんでしょうか。

○中野高速道対策局長 鹿児島側の進捗ということでございますが、今おっしゃられたとおり、末吉、財部、曾於弥五郎までは既に開通しておりますので、そこから今、曾於弥五郎一志布志間を事業中ということでございます。現在、直轄のほうで鹿屋串良までは26年度供用ということで示されておりますが、鹿屋串良一志布志間はまだ開通の予定は示されていないという状況でございます。

○蓬原委員 串良まで26年だから、こちらの東九州自動車道と一緒にということですね。よくミッシングリンクという話が出るんですけど、日南まではどうにかめどというか、事業は続けられるというお話ですけど、問題は、日南から志布志まで、このあたりの見込みというのは、現状だと全く見込みは立たないという状況ですか。

そのためにも日南までの部分を早くしっかりやる必要があるだろうと思うわけですが、どうなんですか。我々は向こうに住んでいますから、このあたりが非常に関心が強いところなんです。いかがなものですか。

○中野高速道対策局長 委員の御指摘どおり、日南一志布志間というのは、基本計画は策定されておりますが、事業化はされていないという状況でございます。また全国的にはこういった事業化されていない区間がたくさんございます。これをどう進めていくかということで、東日本大震災を踏まえて、特に津波のリスクの高い地域については進めていくべきだということが高速道のあり方検討委員会等でも大きな議論になっているということでございまして、こちらにつきましては、昨年の12月に中間取りまとめという形で、国道の安全性・信頼性の向上という観点から、このミッシングリンクは整備していくべきだという提言もいただいておりますので、具体的にどういうふうに進めていくか、今、整備局のほうでも調査がされているということだというふうに認識しております。

○蓬原委員 都城志布志道路の話も出ましたけど、鹿児島側がどうも進捗が早いなという印象があるんです。今お聞きしても、志布志まで事業中だと。まだ完成はわからないけれどもというお話で、こちらは志布志一日南が皆目まだわからないということなんですね。だから、26年度、東九州自動車道が延岡までできることはめどがついた。我々が力を入れないといけないのは、高千穂を通る中央自動車道。今のままの予算のつき方でいくと200年かかるというお話で、東京の1キロを1年我慢してもらえば、200年が1年分をつくんじゃないかと、その話なんです。だから、あと力を入れるべきは中央自動車道と、

結果的には日南一志布志にこぶしを振り上げてみんなで徹底してやらないかなと。皆さん方をお願いするだけじゃなくて、議会も一緒にやらないといけないんだろうなと。もう一回繰り返しますけど、鹿児島の方は来るのに、何か宮崎だけ予算のつきが悪いなという、これは皆さんが悪いと言っているんじゃないんですよ。いろいろなことがあるんでしょうけれども、そういう印象が具体的に数字としてあるので。以上です。

○丸山委員 私の地元の新燃岳のことについてお伺いしたいんですが、1年前のきょうが噴火した日であって、高原町内でもそれに対する啓発を含めていろいろやっているところなんですけど、私がお伺いしたいのは、新燃岳だけじゃなくて、今、桜島のほうも非常に活発に噴火しています、新燃岳が噴火した場合にはかなりの降灰があって、昨年も2億近くかけて道路の清掃とかやっていたと思います。これは純県費だったというふうに聞いています。国道・県道は補助がない、市町村道は補助があると。あっても災害を取ればいいのかということなんですけれども、鹿児島県とか他県とも連携しながら、国道・県道にも補助制度をつくってほしいということもお願いしているというふうに聞いています。今の国の考え方ですね。このままだったらずっと変わらずに、県が管理している部分は自分たちでやりなさいというような冷たい形で、地方は苦しい財源の中で1億、2億取られると、本当はやりたい事業がやれないということが昨年は多分起きたんじゃないかなというふうに思っています。鹿児島県を含めて、ほかの活火山を持っているところとの連携、今が出しどころじゃないのかなと思っていますので、どういう状況かというのをお伺いしたいと思っています。

ます。

○谷口道路保全課長 降灰対策についてでございます。今、委員おっしゃったように、県管理の道路については、降灰除去事業の対象外ということでございます。主な理由としては、市町村は対象範囲が広いということ、それと財政力の関係で、今のところ法律的には県管理道路は対象外という整理にされているということでございます。しかしながら、今後は、新燃岳、言われたように、桜島も含めて、どういった状況になるかわかりませんので、県としましては、ぜひとも、国県道につきましても、除去事業の対象にさせていただきたいということで、国のほうに今、要望しているところです。うちの単独だけではなくて、活動火山を持っている複数の県でつくっている協議会がございまして、そちらのほうを通じても、宮崎県も新たにその協議会にも参加しましたし、その協議会を通じても国のほうに補助の拡大について今、お願いしているような状況でございます。以上でございます。

○丸山委員 まだお願いをしているだけであって、結果が出ないと結局意味がないというふうに思っています。どこかの地域がそういう災害に遭うかもしれない。また、活火山がまた新たに発生する地域もひょっとしたらあるかもしれないと思っていますので、対岸の火事じゃないんですよという気持ちで、他県等も含めて、何で市町村道だけがと。県が管理している道路が対象にならないというのは私は絶対おかしいというふうに思っています。同じ国土に住んでいるながら差別をされているというふうに思いますので、ぜひ、引き続き強い実質的な活動をお願いしたいと思っています。

○松村委員長 何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○松村委員長 何もないようでございますので、
以上をもって県土整備部を終了いたします。

執行部の皆様、お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。

午前11時50分休憩

午前11時52分再開

○松村委員長 委員会を再開いたします。

そのほか、何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○松村委員長 それでは、以上をもって委員会
を終了いたします。

午前11時52分閉会